

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年12月15日

【四半期会計期間】 第37期第1四半期(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

【会社名】 株式会社クロスフォー

【英訳名】 Crossfor Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 土橋 秀位

【本店の所在の場所】 山梨県甲府市国母七丁目11番4号

【電話番号】 057 - 008 - 9640(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 山口 毅

【最寄りの連絡場所】 山梨県甲府市国母七丁目11番4号

【電話番号】 057 - 008 - 9640(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 山口 毅

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第1四半期 連結累計期間	第37期 第1四半期 連結累計期間	第36期
会計期間	自 2022年 8 月 1 日 至 2022年10月31日	自 2023年 8 月 1 日 至 2023年10月31日	自 2022年 8 月 1 日 至 2023年 7 月31日
売上高 (千円)	753,840	797,497	3,006,121
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	22,639	8,104	224,159
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期(当期)純損 失( ) (千円)	28,730	10,160	272,400
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	28,698	8,737	274,439
純資産額 (千円)	2,041,471	1,803,711	1,807,684
総資産額 (千円)	5,075,442	5,359,104	5,259,654
1株当たり四半期純利益又は1株当たり 四半期(当期)純損失( ) (円)	1.70	0.60	16.09
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	-	0.60	-
自己資本比率 (%)	39.5	33.0	33.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第36期第1四半期連結累計期間及び第36期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態および経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間（2023年8月1日～2023年10月31日）の連結業績は、売上高は797,497千円（前年同期比5.8%増）と増収、営業損失は9,685千円（前年同期は営業損失49,378千円）と増益により赤字幅が減少しました。これは主に、海外大手得意先からの受注が戻りつつあること、海外の新規顧客の開拓が着実に前進していること、国内外の得意先から品質の支持を受けてテニスチェーンの販売が拡大していることによります。売上高総利益率は、セールスマックスの改善及び適正販売価格の維持に注力した結果、前年同期比で3.7ポイント改善し、34.8%となりました。売上高販管費比率は、売上高の増加及び冗費の削減を進めた結果、同1.7ポイント低下し、36.0%となりました。また、営業外収益は、前年同期に比べ為替差益が10,055千円減少したこと等から合計で24,145千円となりました。営業外費用は、支払利息が前年同期程度であったこと等から合計で6,356千円となりました。この結果、経常利益は8,104千円（前年同期は経常損失22,639千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10,160千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失28,730千円）となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、誠に遺憾ながら全ての段階利益において黒字化を達成することができませんでしたが、当社グループがグローバルで唯一無二のジュエリー・アクセサリーブランドであり続け、未来に向けて着実に成長していくため、以下の施策を継続して実施していきます。

- 1) 世界中のブランドと共生できるオリジナル製品の開発・セラミックアートシリーズの開発
- 2) グローバル拡販の加速・北米市場の深耕
- 3) デジタルトランスフォーメーションの推進
- 4) 事業の拡大とサステナビリティへの取組み

なお、当社グループの事業セグメントは、「ジュエリー事業」の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。

地域別売上高・比率	当第1四半期連結累計期間	
地域名	売上高(千円)	売上比率(%)
日本	466,318	58.5
タイ	83,253	10.4
インド	101,353	12.7
中国	83,614	10.5
その他	62,957	7.9

#### (資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ99,449千円増加し、5,359,104千円となりました。これは主に、商品及び製品が30,983千円増加、仕掛品が26,611千円増加、原材料及び貯蔵品が30,923千円増加、貸倒引当金が31,456千円減少、現金及び預金が33,936千円減少したこと等によるものであります。

#### (負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ103,422千円増加し、3,555,392千円

となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が75,444千円増加、長期借入金(1年内返済予定を含む)が17,371千円増加、賞与引当金が11,889千円増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,973千円減少し、1,803,711千円となりました。これは主に、利益剰余金の配当額12,710千円、親会社株主に帰属する四半期純利益10,160千円を計上したこと等によるものであります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は8,150千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,688,000
計	26,688,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年12月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,745,000	17,745,000	東京証券取引所 スタンダード市場	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	17,745,000	17,745,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年8月1日～ 2023年10月31日	-	17,745,000	-	710,508	-	710,508

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年7月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 798,000		完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,943,900	169,439	
単元未満株式	普通株式 3,100		
発行済株式総数	17,745,000		
総株主の議決権		169,439	

【自己株式等】

2023年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社クロスフォー	山梨県甲府市国母 七丁目11番4号	798,000		798,000	4.50
計		798,000		798,000	4.50

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年8月1日から2023年10月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年8月1日から2023年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、應和監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	596,844	562,907
受取手形及び売掛金	501,765	499,574
商品及び製品	1,336,646	1,367,629
仕掛品	264,820	291,431
原材料及び貯蔵品	701,161	732,085
未収還付法人税等	23	39
その他	166,214	179,413
貸倒引当金	32,451	995
<b>流動資産合計</b>	<b>3,535,024</b>	<b>3,632,085</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	894,384	884,139
土地	331,094	331,094
建設仮勘定	20,868	-
その他（純額）	78,938	93,440
<b>有形固定資産合計</b>	<b>1,325,286</b>	<b>1,308,674</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>216,844</b>	<b>231,158</b>
<b>投資その他の資産</b>		
長期貸付金	8,281	8,931
その他	169,172	173,705
貸倒引当金	316	441
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>177,137</b>	<b>182,194</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>1,719,268</b>	<b>1,722,027</b>
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	5,361	4,990
<b>繰延資産合計</b>	<b>5,361</b>	<b>4,990</b>
<b>資産合計</b>	<b>5,259,654</b>	<b>5,359,104</b>



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	83,015	158,460
短期借入金	530,000	530,000
1年内償還予定の社債	54,000	54,000
1年内返済予定の長期借入金	504,728	528,681
未払法人税等	7,422	3,033
賞与引当金	-	11,889
その他	73,216	79,298
流動負債合計	1,252,382	1,365,363
固定負債		
社債	149,000	149,000
長期借入金	2,046,597	2,040,014
その他	3,990	1,015
固定負債合計	2,199,587	2,190,029
負債合計	3,451,969	3,555,392
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	710,508	710,508
資本剰余金	804,175	804,175
利益剰余金	279,503	276,954
自己株式	20,378	20,378
株主資本合計	1,773,809	1,771,259
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	218	34
為替換算調整勘定	1,917	3,158
その他の包括利益累計額合計	1,699	3,123
新株予約権	35,575	35,575
純資産合計	1,807,684	1,803,711
負債純資産合計	5,259,654	5,359,104

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年8月1日 至2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年8月1日 至2023年10月31日)
売上高	753,840	797,497
売上原価	519,147	519,874
売上総利益	234,693	277,623
販売費及び一般管理費	284,071	287,308
営業損失( )	49,378	9,685
営業外収益		
為替差益	31,679	21,623
受取賃貸料	1,453	1,551
その他	291	970
営業外収益合計	33,424	24,145
営業外費用		
支払利息	5,692	5,618
コミットメントフィー	174	174
その他	817	563
営業外費用合計	6,685	6,356
経常利益又は経常損失( )	22,639	8,104
特別損失		
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	0	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	22,639	8,104
法人税、住民税及び事業税	834	852
法人税等調整額	5,257	2,908
法人税等合計	6,091	2,056
四半期純利益又は四半期純損失( )	28,730	10,160
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	28,730	10,160

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	28,730	10,160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	156	183
為替換算調整勘定	124	1,240
その他の包括利益合計	32	1,423
四半期包括利益	28,698	8,737
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28,698	8,737
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第 1 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 1 四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 8 月 1 日 至 2022年10月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2023年 8 月 1 日 至 2023年10月31日)
減価償却費	20,896千円	17,748千円

( 株主資本等関係 )

前第 1 四半期連結累計期間(自 2022年 8 月 1 日 至 2022年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月27日 定時株主総会	普通株式	59,104	3.50	2022年7月31日	2022年10月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第 1 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 1 四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第 1 四半期連結累計期間(自 2023年 8 月 1 日 至 2023年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年10月27日 定時株主総会	普通株式	12,710	0.75	2023年7月31日	2023年10月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第 1 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 1 四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

( セグメント情報等 )

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、「ジュエリー事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)

当社グループは、ジュエリーを主な事業とする単一セグメントであるため、売上高を製品の地域別に記載しております。

(単位：千円)

	国内向け製品販売	海外向けパーツ、 製品販売	合計
一時点で移転される財及びサービス	537,890	215,949	753,840
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	-	-	-
合計	537,890	215,949	753,840

当第1四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

当社グループは、ジュエリーを主な事業とする単一セグメントであるため、売上高を製品の地域別に記載しております。

(単位：千円)

	国内向け製品販売	海外向けパーツ、 製品販売	合計
一時点で移転される財及びサービス	466,318	331,179	797,497
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	-	-	-
合計	466,318	331,179	797,497

( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( )	1円70銭	0円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失( )(千円)	28,730	10,160
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又 は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	28,730	10,160
普通株式の期中平均株式数(株)	16,886,919	16,946,919
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	0円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	83,219
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	第5回新株予約権 新株予約権の数 769個 (普通株式 153,800株)

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するもの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年12月15日

株式会社クロスフォー  
取締役会 御中

應和監査法人  
東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 澤 田 昌 輝

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 土 居 靖 明

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クロスフォーの2023年8月1日から2024年7月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クロスフォー及び連結子会社の2023年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般

に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。